

平成19年3月23日

平成 18 年度 継続評価書

研究機関 : KDDI (株)、(株)KDDI研究所、日本電気(株)、富士通(株)、東京大学、
慶應義塾大学、九州工業大学

研究開発課題 : ユビキタスネットワーク制御・管理技術に関する研究開発

研究開発期間 : 平成 15 ~ 19 年度

代表研究責任者 : 村上 仁己

総合評価 : 適

(適 / 条件付き適 / 不適の3段階評価)

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 優れている。
- 最終年度に向けて、順調に遂行されてる。
- 他の2チームとの連携が今後、更に求められる。例えば、超小型チップネットワークチームで開発されたDICEなどと本チームの慶應大での成果がどのような関連をもって活用可能かなどを議論頂きたい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

(総論)

計画通りの成果が得られ、一部に進歩的な成果等が認められる。

(コメント)

- 計画の100%達成の見込みであり優れている。
- 高いレベルのジャーナルペーパーへの発表がある。
- 標準化活動として IETF への貢献がある。
- 研究成果に関連して u-Japan ベストプラクティス2006の総務大臣賞を受賞している。
- 比較的多くの組織が連携したプロジェクトであるが、個々の組織の成果と連携した成果が順調に挙げられている。
- 論文発表件数や特許出願も目標達成できている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

(総論)

予算計画書あるいは適切な理由に基づく支出変更理由(以下、予算計画書等)に則り、効率的かつ適正な執行が行われている。さらに、資金管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 良好である。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

(総論)

実行可能かつ効率的な計画である。さらに、工程管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 良好である。
- プロジェクト内の各機関の連携や、他のプロジェクトとの連携等、積極的な取り組みが見られる。
- 数値目標を掲げて研究開発を推進している。
- 最終年度に向けて、実用化をある程度想定できている。
- IEEE802.16系をはじめその他様々なアクセス環境が標準化、実用化されていくと考えられるところ、このような点について留意しつつ進められたい。
- 認証・エージェントチームではITU - T SG16が標準化の中心であるが、本チームはSG12が中心と思われる。チーム間の連携が期待される。
- データフロー解析の情報セキュリティへの応用も期待される。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

(総論)

おおむね、効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当である。さらに、経費節減や執行管理などの面で優れた取り組みが認められる。

(コメント)

- 良好である。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

(総論)

適切な実施体制が組み立てられており、計画通りの事業進捗が見込まれる。

(コメント)

- 良好である。
- 他のプロジェクトとの連携の取組みを期待する。
- 組織が多数に分かれており、チーム内での連携体制を強化願いたい。
- 他の2チームとの連携も最終年度に向けて、強化して頂きたい。